



## 振興公社のこと

フェリスラテが飯館分場として使用する牛舎は、飯館村振興公社の牛舎です。震災前、飯館牛の品質の向上に、職員が一丸となって励んでいた場所です。



平成20年撮影

飯館村振興公社  
佐藤宣清 事務局長

震災前、飯館牛の繁殖・肥育に取り組む農家は数百軒にのぼっていました。昭和63年に設立された振興公社では、この畜産技術センターで肥育の研究を行い、得られたデータをJAの和牛改良組合と共有するなど、畜産農家にフィードバックをして、飯館牛の資質向上に努めていました。また、さらに、受精卵移植にも取り組み、繁殖牛の品種を改良。血統のよい牛を残しながら、飯館牛のレベルを上げていきました。

飯館牛のブランド力が認知されると同時に血統のよさも評価されるようになり、子牛の値が上がり、各地から大勢のバイヤーが訪れるようになりました。方向性が間違っていなかったと、手応えを感じていた矢先の、震災だったのです。

現在は、そうした技術研究の事業を休止していますので、牛舎を活用してもらえ、互いによいことだと考えています。これからも、畜産の再生に取り組む農家を、村と一緒に応援していきたいと思ひます。



(上)働きやすさや作業の効率化も大事にしているフェリスラテ。若手の育成にも力を入れます。  
(下)初めての搬入も手際よく作業が進みました。



フェリスラテで生産される堆肥は、これまで村で使われてきましたが、今後は分場の堆肥も活用されます。

「ここで子牛の育成ができることになり、親身に相談に乗ってくれた村に感謝しています」。開口一番、田中さんは、そう言って笑顔を見せました。代表を務めるフェリスラテは、福島市土船の牧場で、500頭を越える乳牛を飼養し、生乳の出荷を行っています。田中さんは、乳牛の自社育成を行いたいと適地を探して、飯館村振興公社の牛舎を育成牧場として借りることになりました。

子牛の価格が高騰する中、自分の牧場で繁殖を行う酪農家が増加していますが、育成にはさらにスペースが必要になることなどから、育成期間中は、他の牧場に子牛を預けている牧場が多いそうです。フェリスラテも、自社で繁殖させた子牛を北海道の育成牧場に預けていましたが、何とそちらも満杯の状態。田中さんは、本格的に、自社育成を目指すことにしました。「自分達で、繁殖や育成を行えば、子牛を預ける経費を削減できますし、牛の健康管理に目を配り、付加価値を高めて育て上げることができます」。今後は、土船の牧場で生まれた子牛を、8か月程度から飯館分場で育成。分娩前には本場に戻し、乳牛として活躍してもらおう。本場で生まれた子牛は、離乳後に育成牧場に来て育つ、という循環が生まれます。

田中さんは、避難後に携わった復興牧場の経験を生かして、牧場経営の向上も目指しています。「よい牛乳をつくるのが、もちろん一番に大切ですが、働きやすい環境の整備や作業の効率化・合理化も目指しています。育成牧場の運用もその流れの一環で、よい経営につなげていきたい。がんばります」。

7月16日、飯館分場に、22頭の子牛が運ばれて来ました。「年内には100頭ぐらいまで増やしたいと思っています。村に戻る仕事の先がけとなっていければうれしいですね」。



# RESTART

## 畜産・酪農の復活へ

### # 育成牧場の誕生

田中一正さん（長泥）

「フェリス」は幸福を表すスペイン語  
「ラテ」はイタリア語で牛乳のこと

「ここで子牛の育成ができることになり、親身に相談に乗ってくれた村に感謝しています」。開口一番、田中さんは、そう言って笑顔を見せました。代表を務めるフェリスラテは、福島市土船の牧場で、500頭を越える乳牛を飼養し、生乳の出荷を行っています。田中さんは、乳牛の自社育成を行いたいと適地を探して、飯館村振興公社の牛舎を育成牧場として借りることになりました。

子牛の価格が高騰する中、自分の牧場で繁殖を行う酪農家が増加していますが、育成にはさらにスペースが必要になることなどから、育成期間中は、他の牧場に子牛を預けている牧場が多いそうです。フェリスラテも、自社で繁殖させた子牛を北海道の育成牧場に預けていましたが、何とそちらも満杯の状態。田中さんは、本格的に、自社育成を目指すことにしました。「自分達で、繁殖や育成を行えば、子牛を預ける経費を削減できますし、牛の健康管理に目を配り、付加価値を高めて育て上げることができます」。今後は、土船の牧場で生まれた子牛を、8か月程度から飯館分場で育成。分娩前には本場に戻し、乳牛として活躍

田中一正さん

株式会社フェリスラテ代表取締役社長。平成13年に村へ移住し、家族で酪農に取り組んでいました。避難後、被災休止酪農家が共同経営する復興牧場の運営に携わり、平成27年、5人の仲間と設立した株式会社フェリスラテの代表に就任。以降、福島市土船の牧場で乳牛を飼育し、生乳の出荷を行っています。同社では現在23人が働いています。